恩を知り、恩を感じ、恩に報いる

Venture fourth は、色んな学年の保護者の方々や先生方が読んで下さっているようで、多方面からお便りが届きます。

しかも、続々と。

また、一通紹介させていただきます。

渡辺先生

有り難いお便りありがとうございました。

各国の『ありがとう』の語源を読んだ時、日本語の語源が 1 番こころに響き『ありがとう(^^)』という言葉をたくさん使おうと思いました！

言葉・漢字の意味やその歴史を知る事は楽しいですね。

日常の些細な『有り難い事』に気付けるセンサーとそれを素直に言葉にできる勇気を持ちながら、『ありがとう』の反対語の『あたりまえ』を【ポジティブ】に使いこなし、コツコツと毎日積み重ねることで効果が期待できる事は、空気を吸うかのように『あたりまえ』に取り組み、習慣化したいものです(^ ^)

子供達には、愛と感謝と尊敬に満ちた学校で【ポジティブ】な習慣を味方につけて【高い志】をたてられるように成長して欲しいです(^ ^)

ペンネーム「コレパパ」さんより

「有難さに気づけるセンサー」、「素直に言葉にできる勇気」、どちらもとても素敵な表現ですね。

そして、それを「習慣化」したい、とも。

「習慣になった努力を、実力と呼ぶ」というキャッチコピーを読んだこと

がありますが、まさにその言葉とも強く相関するなと思いました。
　ほんの少しの間だけの努力は、誰だってできます。
　けれど、それを続けて習慣化すのは容易ではありません。
　同じように、時折、感謝できるのは誰だって出来ます。
　でも、それを日々の暮らしの中でごく自然に、毎日感じられるかといえば、それは大人であっても非常に難しいことといえるでしょう。

　今回の宿泊体験に際しても、その「有難さ」を体感するために、様々な学びを行いました。
　例えば、「水」がそうです。
　子どもたちは、旅館についてすぐに、昼食と共に出してもらったお水を飲みました。
　そして、みんな一斉に
　「おいっしー！！」
と喜びの声を上げました。
　「本当に、おいしんだね。」
　「愛知用水の味がするね。」
　そんなことを言い合っているのです。
　あの社会科の授業を参観に来られた方々はよくお分かりになると思いますが、この水がどれだけの努力と苦労を経て届いているかが分かるからこそ、あの心の底からの「おいしい」が生まれたのだと思います。
　子どもたちは、明らかにその水の「ありがたみ」が分かっている様子でした。
　少なくとも、その学びを経る前では、これほど大きな喜びや感動は生まれなかったでしょう。

　私は、「大人になる」とは、一つに「恩を知る」ことなのだと思っています。
　恩を知り、恩を感じ、恩に報いる。
　仏教では、これを「知恩・感恩・報恩」といいます。
　恩の存在に気付いた時。
　恩の大きさがイメージ出来た時。
　人は、「感謝」の思いが生まれます。
　いきなり「感謝しなさい」ではないのです。
　どんな恩を受けたのかを知り、だれに支えてもらっているのかが分かるこ

とで、初めて感謝の思いは浮かんで来るものだということです。
　そして、恩を知ろうとも感じようともしない姿を、「恩知らず」といいます。
　さらに恩知らずどころか、「恩をあだで返す」人も世の中にはいます。
　こんなことを続けていたらどうなるか。
　詳しくは書きませんが、それは 4 年生のみんなならきっとわかるはずです。
　悪い原因は、悪い結果しか生みません。
　そして、良い原因は、良い結果しか生みません。
　「因果応報」という言葉がありますが、この言葉は悪いことを戒めるための言葉というより、むしろ「善因善果」「悪因悪果」といって、起きてきていることには全てふさわしい原因があるという意味から来ています。
　名著『原因と結果の法則』にも通ずる考え方です。
　尚、「恩」に対する人の行動を段階的に示すと、次のようになります。

恩をあだで返す　恩知らず　恩を知る　恩を感じる　恩を返す　恩を送る

未熟　　成熟

　最後の「恩を送る」とは、「誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ること」です。
　最も心の成熟度の高い人ができる行いです。
　最近、自然と人助けをしたり、言われずに陰徳を積んだり、クラス外の人にも優しく思いやり深い行動をしている人を毎日目にするようになりました。
　その「恩を送る姿」に、みんなの確かな心の成長を感じているところです。

　そして、その他の恩も知らせるために、実は宿泊体験の前にはこのような学びの場も創り出すことにしました。
　それは、「お金」の学びです。
　宿泊体験には、たくさんのお金がかかっています。
　まだ働いていないみんなにとっては、その金額の価値をとらえることは難しいでしょう。
　だからこそ今回は、宿泊体験を通してそのお金の「価値」を勉強する絶好の機会だともいえます。
　この宿泊体験は、観光やレクリエーションをするだけでなく、様々な仕事について学ぶチャンスでもあるからです。

漁業に従事する人、旅館で働く人、イルカの飼育員さん、電車や船の運転手さん、…。
多くの方々が、行く先々で働いています。
そうした色んな人たちの仕事があって、この宿泊体験が成立することもまた事実だといえます。
そこで宿泊体験に行く直前に、次の話を教室で語り伝えてみました。

私が初めてした仕事は、新聞配達でした。
朝４時に起床、その後約１３０部ほどの新聞を配達に行く仕事です。
休みは水曜日だけで、他は毎朝配達に行きました。
一番大変だったのは冬です。
腰の高さほどの雪をかきわけながら、新聞を濡らさないように注意を払って玄関まで歩いたことも何度もありました。
これを中学校の３年間続けました。
ここでみんなに予想してみました。

週６日、１３０部の新聞を配達して１カ月にどれほどのお給料がもらえると思いますか。

全員答えはまちまち。
数千円と答えた子がいれば、10 万円と答えた子もいます。
働いた経験が無いのだから当然でしょう。
答えは、約３万円です。
「多い」と答えた子もいたし、「少ない！」と話す子もいました。
もしかしたら、みんなにとっては働く事の対価としての「価値」を、初めて考えた瞬間だったかもしれません。
それは、「お金の重み」と言い換えてもいいでしょう。
私は、働いてみて初めて、お金を得ることの大変さを知りました。
現段階では、みんなはそれを体感することができません。
でも、イメージすることはできるはずです。

みんな、今回の宿泊体験の費用はいくらだか知っていますか？

宿泊学習の費用は、およそ３万円。
わずか３日間の旅行で、これだけの金額がかかっているのです。
新聞配達の例と比べると、その価値が分かってくることと思います。
働けるようになって、自分の労働をもってして旅行に行くとするならば、

それ相応の「働き」が必要になるということです。
　言わずもがなだが、その働きを代わりにしてくれたのは、お家の方です。
　行く先々の仕事だけでなく、お家の方の仕事があって、今回の旅行は実現しているのです。
　ここまでを伝えると、子どもたちは次のように言いました。
　「そんなにお金をもらうことが大変なんて知りませんでした。」
　「いっぱい勉強して思い切り楽しんで、いい３日間にしたいです。」
　繰り返しますが、旅行的行事は大切な金銭教育の場です。
　これほど生きた形で学べることは、学校生活においてはほぼありません。
　民宿に泊まること、バスに乗ること、様々な体験をすること、そこにどれほどの費用がかかることを知ることも、また大切な学びなのだと思います。
　それらが全て、今後社会の中で生きていく上で必要な勉強だからです。
　そして、「恩」を知り、「恩」を感じることが出来たのならば、ぜひ今度はその恩を返せるようになってみましょう。
　できるならば、恩を贈ってみるのもいいかもしれません。
　みんながこの宿泊体験で得た学びや恩を、社会や周りの皆さんにどう返し、送っていくのか、楽しみにしています。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit